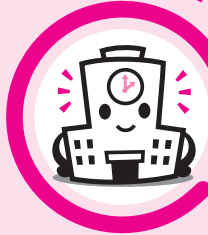


つながる



学校と家庭の学び

学習習慣定着と授業研究に 小中が連携して取り組む

佐賀県伊万里市立南波多小学校

伊万里市立南波多小学校では、子どもの生活・学習習慣を整えようと、隣接する同市立南波多中学校と力を合わせ、子どもが1日をどのように過ごすかを自分で決める「生活スケジュール表」など、さまざまな取り組みを行っている。小中が連携して協力を呼び掛けかけた結果、家庭での声掛けも増え、規則正しい生活を送る子どもが増えているという。

帰宅後のスケジュールを 子どもが自分で作成し実践

伊万里市南波多地区は1小1中で、伊万里市立南波多小学校のほとんどの卒業生は、同校から50メートルほどの距離にある伊万里市立南波多中学校に進学する。2006年度、両校は伊万里市教育委員会から小中連携教育研究校に指定されたのをきっかけに、授業や行事などに合同で取り組むなど、交流を深めるようになった。月1回、小中連絡協議会を開き、子どもの生活や学習状況について話し

合う。また、保護者に取り組みのねらいや子どもの様子を伝えるためのパンフレット「連携読本」も、共同で作成・配布している。

小柳伸博校長は、中学校と連携する意義を次のように説明する。

「小・中学校の教師が共通の方針の下で力を合わせ、子どもの可能性を引き出したいと考えました。現在は学習習慣と授業研究の部会に分かれて研究を進め、子どもの学力向上と生活・学習習慣の定着を図っています」
学習習慣部会の活動の1つに、「生活スケジュール表」(図1)がある。こ

れは、下校後の時間をどのように使うか、子どもが自分で予定を立てるためのものだ。自主学習時間や就寝時刻などを書き、家庭に持ち帰って居間などの家族が集まる場所に貼る。

小学生の場合、まず1学期に作り、実行できなかつた反省やもつと頑張りたいことなどを踏まえ、2学期、3学期に修正版を作る。いずれも保護者と担任が内容を確認する。

修正版を作る際には、「生活スケジュール表」でなかなか守れないところに関して、「21時以降はテレビを見ない」「22時までには必ず布団に入る」とい

うように、保護者と子どもとの間で約束事を1つ決めてもらっている。5学年担任で特別活動主任の吉富和香子先生は、次のように話す。

「規則正しい生活の習慣化には、家庭でもこまめに声を掛けてもらうことが重要です。子どもが自分で決めたスケジュールを意識できるように具体的な約束をしてほしいと、生活・学習習慣部会だよりで例を示しています」

合同授業参観で保護者にも 乗り入れ授業の様子を伝える

授業研究部会の活動では、中学校

図1 「生活スケジュール表」(高学年用)

南小っ子 生活スケジュール表 五年 名前										
保護者印										
パターンA どんな日?ー 何も予定がない日										
4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時				
	宿題	読書								
パターンB どんな日?ー 習字がある日										
4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時				
	宿題	準備	習字							
パターンC どんな日?ー ピアノがある日										
4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時				
	ピアノ	宿題	準備							

習字がある日、ピアノがある日、塾がある日というように、複数の習い事をしている子どもが必要に応じて計画を立てられるように、1枚に3通りの生活スケジュールを書けるようにしている。長期休業中もしっかりと生活リズムを維持できるように、7月には夏休み専用の「生活スケジュール表」も作成する。南波多中学校では、これに学習面を強化させ、テスト計画表も兼ねたものを活用している

*同校の資料をそのまま掲載

の教師が小学生を、小学校の教師が中学生を教える「乗り入れ授業」(P.30図2)を積極的に行っている。中尾聡彦^{あきひこ}教頭は、この意義を次のよう

に話す。「中学校入学は、子どもにとって大きな環境の変化となります。小学生のうちから中学校にどのような教師がいるのかを知り、更に中学生になっても、自分がよく知っている小学校の教師による授業があれば、子どもは安心して学習に取り組めるでしょう。いわゆる中一ギャップを感じることもしなくなると考えています」

13年度の取り組みを見てみよう。中学校から音楽、書写、英語の教科担当を招き、6年生の音楽、5年生の書写、5・6年生の外国語活動の授業を毎時間担当してもらっている。外国語活動は担任と2人で行うが、音楽と書写は中学校の教師1人で行う。

小学校からは教務主任の西伸吾先生が中学校へ行き、週4コマある1年生の数学の授業を全て教科担当と2人で指導している。

「5年生の書写の授業を見学に行ったときは、字の形や姿勢などの指導がより具体的であることに驚きました。最初と最後に書いた紙を取っておいて見比べさせるという指導も、子どもに進歩を自覚させるといいう面で大変効果があると参考になりました」(吉富先生)

他にも、単元によって中学校教師がイベント的に授業をする場合もある。例えば5・6年生の理科では、夏休み前の授業で実験してもらい、自由研究の参考になるようにした。

「授業を通して中学校の教師の様子も、毎年6月、両校が同日に行う合同授業参観では、小中連携の様子を保護者に伝えるために、「乗り入れ授業」を1コマ以上行うようにしている。13年度、小学校では6年生の音楽の授業を参観してもらった。

「授業を通して中学校の教師の様子も、毎年6月、両校が同日に行う合同授業参観では、小中連携の様子を保護者に伝えるために、「乗り入れ授業」を1コマ以上行うようにしている。13年度、小学校では6年生の音楽の授業を参観してもらった。

また、毎年6月、両校が同日に行う合同授業参観では、小中連携の様子を保護者に伝えるために、「乗り入れ授業」を1コマ以上行うようにしている。13年度、小学校では6年生の音楽の授業を参観してもらった。

また、毎年6月、両校が同日に行う合同授業参観では、小中連携の様子を保護者に伝えるために、「乗り入れ授業」を1コマ以上行うようにしている。13年度、小学校では6年生の音楽の授業を参観してもらった。

佐賀県伊万里市立南波多小学校

◎1996(平成8)年開校。佐賀県西部、ブドウ畑や梨畑が広がる田園地帯に位置する。南波多中学校と共通の教育目標として、「ふるさとを愛し、志をもつ児童生徒の育成」を掲げている。毎月発行する学校だよりを校区内の全戸に配布し、運動会やコンサートなどの行事に参加を呼び掛けるなど、地域との連携も重視している。

校長 小柳伸博先生
児童数 147人
学級数 7学級(うち特別支援学級1)
所在地 〒848-0007 佐賀県伊万里市南波多町井手野 3100
TEL 0955-24-2007
URL <http://www2.saga-ed.jp/school/edq14308/>



伊万里市立南波多小学校校長

小柳伸博

こやなぎ・のぶひろ

「子どもと間近に触れ合っ
て一人ひとりの実態を把握
し、学校運営に生かしたい」



伊万里市立南波多小学校教頭

中尾聡彦

なかお・あきひこ

「子どもが安心して学ぶこと
ができ、楽しい時間を過ご
せる学校をつくりたい」



伊万里市立南波多小学校

西伸吾

にし・しんご

教務主任。「中学校の先生方
と密接に連絡し合い、小中
連携を推進していきたい」



伊万里市立南波多小学校

吉富和香子

よしとみ・わかこ

5学年担任・特別活動主任。
「常に笑顔で子どもと接し、
学が楽しさを伝えたい」

図2 乗り入れ授業の様子(「連携読本」より)



「連携読本」は小中連携を始めて6年目の2011年度に作成した、保護者向けの10ページの冊子。両校が力を合わせて育てようとする子ども像、そのために取り組んでいる活動などを写真付きで紹介している。「乗り入れ授業」を紹介するページもある

*同校の資料の一部を掲載

子を知ることが出来ずから、保護者は安心して子どもを中学校に送り出せるようになると思います。また、中学校の教師にとっては、進学してくる子どもの保護者と顔見知りになる機会になっていくようです」(西先生)

「乗り入れ授業」によって、両校

の教師のつながりは強くなっていると、中尾教頭は話す。

「連携を始めた当初は、互いに意識の違いや文化の違いがあり、分かり合えるかという不安がありました。けれども、取り組みを粘り強く続けることによって、小学校の教師は中

学校の教師から専門性の高い指導を、中学校の教師は小学校の教師から子ども一人ひとりを見取るきめ細かな指導を、互いに学び合うようになりまし。共に子どもを伸ばそうと考えられるようになったからこそ変化だと思っています」

両校の親睦会では、小中の教師が交じり合って座り、子どもについて語り合っているという。

家庭での声掛けにより生活・学習習慣が定着

小中連携に取り組み始めて7年が経ち、ほとんどの卒業生が早期に中学校生活になじめるようになった。

規則正しく生活できる子どもも多くなっている。子どもへのアンケート調査で、「登校する1時間前には起きる」「決まった時刻に寝る」という回答がどの学年でも7割前後に達した。学習習慣も定着しつつあり、

全学年平均で「テレビやゲームの前に宿題を済ませる」という子どもは8割以上、「毎日、時間を決めて学習している」という子どもは7割近くを占める。学校の指導だけでなく、家庭での声掛けが増えたことが実を結んでいると、吉富先生は話す。

「『食事や就寝・起床の時刻などについて子どもとよく話すようになった』という保護者の声をよく聞くようになりました。学習時間をもっと増やせるよう、時間の使い方をアドバイスする保護者もいるようです」

小中連携に対する保護者の理解も深まっている。中学校と合同で行う「ふれあいコンサート」には、毎年、椅子が足りなくなるほど多くの保護者と地域の方が出席する。この町で育っていく子どもたちが真剣に取り組み姿を間近で見られる機会だと、大変多くの人が楽しみにしている。小柳校長は、今後について次のように話す。

「9年間を掛けて子どもを見取るという意識が両校の先生方に浸透してきました。今後は小中一貫校化を目指し、今まで以上に連携を強められるように、先生方や保護者と協力していきたいと考えています」

中学につながる「学ぶ意欲」を育み、 中学準備や学習法が分かる 6年生向け副教材を無料でご提供します

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2012年度は、のべ約15,000校から約160万冊ものお申し込みをいただきました。2013年度は、6年生の児童向けに、キャリア教育の授業で自分の将来について考え、中学以降につながる「学ぶ意欲」と「自分でできる自信」を育むサポートをします。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。ただ今、お申し込みを受付中です。詳しくはホームページまたは本誌同送のチラシをご覧ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクト ホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

未来に進むからを育むプロジェクト。
ベネッセの学び応援

事前予約
締め切り

2013年
12/20

金

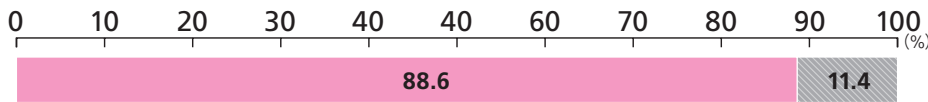


学習は難しくなったが、中学校生活は楽しい

中学校の学習 (回答:中学生)

中学1年生の時、苦手と感じるようになった教科はあるか

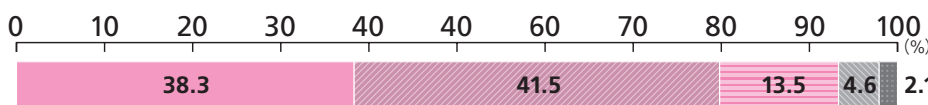
ある ない



中学校生活の印象 (回答:中学生)

中学校は楽しいか

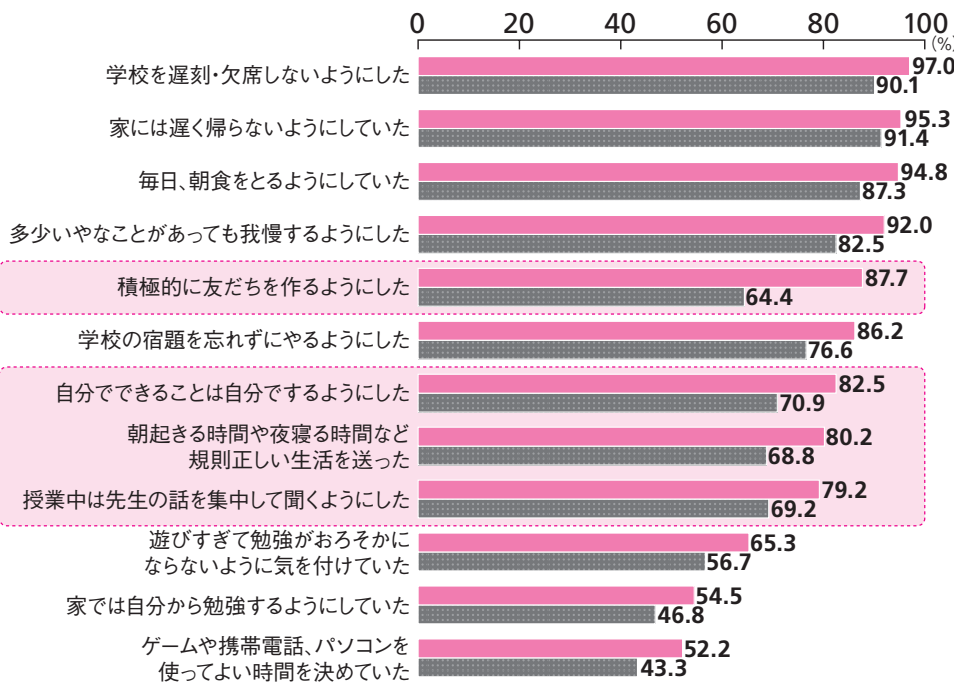
とてもあてはまる ややあてはまる どちらともいえない あまりあてはまらない
まったくあてはまらない



中学校に入学して学習スタイルや学習進度が変わることに
より、9割近くの子もたちが
苦手意識を抱く教科をもつよ
うになる。いわゆる中1ギャ
ップの一端だが、反面、約8割
の子もたちは、中学校生活
を楽しんでいる。環境
の変化にとまどいながらも、努
力して充実した中学校生活
を送ろうとする子どもたちの様
子がうかがえる

友だちづくりと規則正しい生活習慣づくりが中学校適応への鍵

中学校の入学後、夏休み明けくらいまでにできていたこと (回答:中学生)



学校は楽しい
学校は楽しいとは思わない

「中学校が楽しいか否か」を指標として見ると、「積極的に友だちを作るようにした」「自分でできることは自分でするようにした」「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活を送った」「授業中は先生の話を集中して聞くようにした」という項目で10ポイント以上の差が出ている。夏休み明けまでの初期段階では、友だちをつくり、自ら生活を律することができる子どもが、中学校生活に適応しているといえる

注1) 「学校は楽しい」は「中学校生活は楽しいか」という質問に「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えた子ども、「学校は楽しいとは思わない」は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えた子どもの割合

注2) 15項目中、一部を抜粋して紹介

出典: ベネッセ教育総合研究所「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

調査時期は、2012年7月。調査対象は、全国の中学2年生とその母親(3,043組)、調査方法はインターネット調査で、中学1年時を振り返る形で質問し、3,043件の回答が回収された時点で調査を終了



上記の関連データはコチラ!
<http://berd.benesse.jp/>
*「調査・研究データ」コーナーをご覧ください